

教育目標

「自ら考え行動し、協働できる生徒の育成」
～ つながりを意識した学校 ～

（１）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して実践する協働の基盤となる言語能力を育成する。

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの３つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する。

① 教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力を意識した取組を意識。
- ・内容（教材）、思考ツール、話し合いの手法を関連単元配列表に記入。他教科との関連を交流した教科横断的な活用。

【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。
- ・発問の工夫など、生徒が思考を働かせる工夫。
- ・ペア・グループ活動のあとに、一人で思考する時間を設定。

②PDCA サイクルの確立

- ・各教科の生徒授業アンケートの実施及び結果の分析。
- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う。
- ・振り返りシートの見直し、改善（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるものへ）。
- ・スケジュール帳とキャリア・パスポートの活用。

③人的物的資源の活用

- ・GIGA 端末の授業での効果的活用。
- ・より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、 美化活動、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）。
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイントプロ・確プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒・保護者アンケートの結果
 - ①自主的に家庭学習が出来ましたか
 - ②自分の思っていることを人に伝えることができましたか
 - ③友人と仲良く協力して活動できましたか
- ・教職員アンケートの結果
 - ①「協働」を意識した授業が行えましたか
 - ②自ら学ぶ姿勢の育成ができましたか

中間評価

	<div data-bbox="165 168 341 203" data-label="Section-Header"> <h2>各種指標結果</h2> </div> <div data-bbox="165 215 1434 922" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 令和2年度 生 ①自主的に家庭学習ができましたか。 26.1%←38.0% 保 29.0%←24.1% 生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 52.3%←61.3% 保 36.9%←31.2% 生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 52.3%←53.4% 保 36.9%←27.1% ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> 「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 97.0%←94.8% 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 97.0%←94.9% ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果 <ul style="list-style-type: none"> 1年生ジョイントプログラムは、国語・数学ともに全市平均を上回る結果だった。 2年生学習確認プログラムは、国語・英語は全市平均を上回ったが、社会・数学・理科は全市平均より低かった。 3年生学習確認プログラムは、5教科すべてで全市平均の正答率を上回った。 </div>
	<div data-bbox="165 929 199 1070" data-label="Section-Header"> <h2>自己評価</h2> </div> <div data-bbox="225 936 480 972" data-label="Section-Header"> <h3>分析（成果と課題）</h3> </div> <div data-bbox="225 983 1434 1258" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は小学校の取組の成果があり、基本的な学力をつけて入学している。しかし、低学力の生徒の層が厚いことが課題である。 ・2年生は入学当初から全体的に学力が低いことが課題であり、提出物が出せない生徒が非常に多い。 ・3年生は、生活面も含めて全てのことをきちんと取り組むことの大切さを指導してきた成果もあり、着実に学力を伸ばしてきている。 </div>
	<div data-bbox="225 1272 568 1308" data-label="Section-Header"> <h3>分析を踏まえた取組の改善</h3> </div> <div data-bbox="225 1319 1434 1646" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> 1年生 特に低学力層を対象にした個別の指導などを丁寧に行っていききたい。 2年生 学習に対する姿勢やテストに向けての取組など、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。 3年生 進路実現に向けてさらに学力をつけていけるように取り組んでいきたい。 全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、再度、学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいく。 </div>
	<div data-bbox="225 1659 903 1695" data-label="Section-Header"> <h3>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</h3> </div> <div data-bbox="225 1706 1434 2076" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①自主的に家庭学習ができましたか。 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 ②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 </div>

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の積み重ねとして、3年生の学力が高いことは評価できます。 ・充実した「学力プラン」、ご苦労さまです。目途としては全市平均と比較してもいいと思いますが、その上を目指す目標を設定されても良いと思います。 ・しっかりしたカリキュラム等を通して実践されている様子が読み取れます。私の職場でもキャリア・パスポートを活用しています。 ・個々の学力に差異が認められる現状は将来における選択肢にも影響します。どうすれば基礎学力が上がるかを検討していきましょう。
---------	---

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が関わる周りの人たちとの<u>つながりを意識</u>し、<u>自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進</u>。 ・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の<u>受容的・共感的な人間関係の育成・深化</u>。 ・「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実。 ・学校経営の柱である「<u>受容的・共感的な人間関係の育成</u>」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。 ・道徳的実践力を育むため、道徳教育との柱となる道徳の授業と特活・行事との連携。 ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、<u>生徒会活動の一層の活性化</u>。 ・道徳教育の在り方について、「それ自体が学習経験となる『評価』」を目指した研究の推進。 ・若手実践研修等を通じ、教職員のスキルアップを図り、よりよい教育相談の実践。 ・教育活動全体を通した、<u>人権尊重の精神の育成</u>。 ・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるために、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。
（取組結果を検証する）各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①自分を大切にしていますか。 ②他人を大切にしていますか。 ③一人一人が大切にされている学級ですか。 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか ・教育相談結果

中間評価

各種指標結果	
・生徒・保護者アンケート	令和３年度 令和２年度
生 ①自分を大切にしていますか。	５６．０％←６８．１％
保	５８．５％←５１．７％

生 保 生 保 生 保 生 保	②他人を大切にしていますか。	7 5 . 1 % ← 8 2 . 8 %
		5 7 . 9 % ← 5 4 . 6 %
	③一人一人が大切にされている学級ですか。	6 1 . 2 % ← 6 2 . 9 %
		3 2 . 8 % ← 4 9 . 5 %
	④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	6 8 . 0 % ← 6 9 . 4 %
		6 5 . 8 % ← 5 1 . 2 %
生 保	⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	7 6 . 3 % ← 7 6 . 0 %
		5 8 . 1 % ← 5 5 . 8 %
自己評価	分析（成果と課題）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が制限され、自分が活躍できる場や他者からの評価を受ける機会が減ったため、自己肯定感を高める機会が減少し、「自分を大切にしている」、「他者を大切にしている」という感覚をもつ生徒が減ったと考えられる。 ・一方で保護者目線では、「自分を大切にしている」、「他人を大切にしている」生徒は増えている。教職員の方も例年と大きく変化している感覚はなく、保護者や教職員からの評価を生徒へ積極的に伝えていく必要があると考える。 ・保護者からの「一人一人が大切にされている学級ですか」の項目で減っている原因としては、コロナのために家庭訪問や休日参観を中止するなど、学校での生徒の様子を知る機会を制限されたためと考えられる。 	
	分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が制限された中でも生徒の自己肯定感を高める方法はある。コロナ禍だからこそ、日々の生活で今まで以上に生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にしたい。 ・また授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やすなど、それぞれの教員が意識して教育活動に当たりたいと考えている。 ・コロナ禍で、保護者に生徒の様子を参観してもらうことが難しい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。 	
学校関係者評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	
	・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①自分を大切にしていますか。 ②他人を大切にしていますか。 ③一人一人が大切にされている学級ですか。 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか 	
	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「③一人一人が大切にされている学級ですか」が下がっていることが気に掛かります。生徒も少し下がっています。 ・各種指標結果から生徒は令和2年から3年にかけて減少、保護者・教職員は増加。生徒の自覚は各項目とも同じ傾向が見られます。人権教育の太秦中学校、頑張ってください。 ・生徒の自主性を大切に取り組まれている様子がよくわかります。 ・社会の一員として自分は必要な存在だという自己肯定感を、中学生の時期に持つことは重要です。一人一人の個性を尊重する教育現場を作り上げてください。 	

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自らの健康について考え、生涯にわたって自らの健康をコントロールし、「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する。

具体的な取組

- ・食事、運動、休養・睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得。
- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用。
- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実。
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。
- ・交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実。
- ・地震・台風・豪雨・火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進。
- ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を実践できる保健教育の充実。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒・保護者アンケート
 - ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。
 - ②規則正しい生活ができていますか。
 - ③自らの健康増進ができていますか。
- ・教職員アンケート
 - ①健康増進に向けた指導をできていますか。

中間評価

各種指標結果

		令和3年度	令和2年度
・生徒・保護者アンケート	生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	89.8%	90.1%
	保	65.6%	64.1%
	生 ②規則正しい生活ができていますか。	33.6%	48.3%
	保	28.4%	28.2%
	生 ③自らの健康増進ができていますか。	40.9%	51.1%
	保	29.5%	27.7%
・教職員アンケート			
①健康増進に向けた指導をできていますか。		87.9%	87.0%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・防災等の危険性の理解は、昨年度同様高率を維持している。昨今は豪雨などの災害も頻発しており、関心は一層高くなっていると思われる。
- ・規則正しい生活や健康増進については大きく下がっている。保護者の回答にさほど変化がないことからあまり実態が変化していない可能性もあるが、コロナ流行以前の回答よりも数値が低い。「自分を大切にしていますか」の回答も同様に低下傾向であることから、自己肯定感の低さが健康を保持増進する意欲の低下につながっている可能性も考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

	<ul style="list-style-type: none"> ・例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。 ・コロナ禍での新しい生活様式についての指導と合わせて、望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。その際、保健委員会による発信などの全体指導と、生活習慣が乱れがちな生徒への個別指導をあわせて行う。また、生活改善に対する意欲が高まるよう、自己肯定感を高める関わりを意識して行う。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができていますか。 ③自らの健康増進ができていますか。 ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に向けた指導ができていますか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、スポーツや体力を養う機会が制限されていることは残念です。 ・この分野は家庭との協力が不可欠。推進をお願いします。 ・喫煙、薬物も低年齢化しており、簡単にネット等で手に入る昨今、危険度をしっかり学ぶことが大切です。 ・コロナ禍で、今まで以上に基本的な生活習慣が損なわれた生徒が多いと思います。今一度原点に戻って、健康であることの意義を見つめ直すいい機会かも知れないと思います。

(4) 学校独自の取組

<div>小中9年間の教育目標</div> <p>「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」</p>
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進。 ・<u>小中合同研究授業、小中合同研修会の充実。</u> ・相互の行事等への積極的参加。 ・生徒会と児童会のさらなる連携。 ・小学生と中学生が、共に学びともに活動する場の創造。 ・小学生の授業体験と部活体験への参加。 ・小中 PTA の合同行事を通じた連携。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 	<div>令和3年度 令和2年度</div> <p>78.8% ← 56.5%</p>
--	---

自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季小中合同研修では、性に関する研修や事務に関する研修を、リモートを通して受けることができた。また、教科ごとの分散会を実施し、今後の授業づくりに生きる研修を深めることができた。しかし、研修時間が限られていたり、コロナ禍でのリモート研修を行ったため、納得いくまでの交流ができないままの教科もあり、課題が残る。今後、もう一度教科ごとに研修を設定して行う予定である。 ・『9年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは、大きな成果だと考える。 ・昨年度と同様に、相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、小中PTAの合同行事などを、今までの形式で実施することは困難な状況である。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生がともに学び、活動する場を、従来の枠にとらわれず、映像やリモート等を活用して新たに創造していく。特に11月に予定されているオープンスクールでは、少しでも「中学校が楽しみになる」内容になるように工夫して取り組んでいきたい。 ・小中で連携し、共通した学校評価の項目を設定する。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育は非常に大切だと思います。今後も継続した取組をお願いしたいです。 ・前進しているようですね。頑張ってください。さらに地域を巻き込んでいきましょう。 ・小中の連携は今後ますます必要になると思います。子どもたちの育つ環境に、つながりは不可欠です。 ・コロナ禍で、部活等にも制限があって難しいですが、たくさん活動できることを期待します。

（５）教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <p>教職員の超過勤務時間の縮減を目指す</p>
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の組織化。 ・各部の長による部の統括。 ・個々の教職員のレベルアップ。 ・管理職による面談。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。 ②気持ちよく働けていますか。 ・出退勤システムによる超勤時間の様子 ・ストレスチェック

中間評価

各種指標結果		
・教職員アンケート		令和３年度 令和２年度
①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。		５７．６％←５３．８％
②気持ちよく働けていますか。		７８．８％←７９．５％
自己評価	分析（成果と課題）	
	・コロナ禍の中、退勤時間を意識することが超過勤務時間削減につながった。しかし、仕事の量が減ったわけではなく、むしろコロナ禍で増えている部分もある。家庭への仕事の持ち帰りによって学校での超過勤務時間が減っている側面も見受けられる。	
	・「気持ちよく働けていますか」の問いに対して８０％近くが肯定的に答えているように、教職員の協働意識は高く、組織で動くことを今後も大切にしたい。一方で、残りの２０％余りの教職員がそうではない原因にも目を向ける必要がある。	
	・採点ソフトを全市に先駆けて導入し、採点、評価等に関わる時間短縮ができた。	
	分析を踏まえた取組の改善	
	・仕事の偏りに目を向け、学年や分掌での役割分担等を見直していく。	
	・仕事量を考えると、部活動についての整理が必要である。	
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	
	・教職員アンケート	
	①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。	
	②気持ちよく働けていますか。	
	・出退勤システムによる超勤時間の様子	
	・ストレスチェック	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・教員＝ブラックからの脱却は大変だと思います。世間や文科省の「日本型教育」が大きなご苦労になっているのではないのでしょうか。	
	・子どもたちが休みでも、先生方はたくさんの仕事があり、家庭に持ち帰ってまでは大変だと思います。	
	・誰のための改革であるのか、何のためにするのか、を改めて考えたいと思います。働き方改革が子どもたちにどんな影響を与えたか、教育現場はいつでも子どもたちが主役でなければならないと思います。	

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標
① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。
② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。
③ 生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 「他人を大切にしていますか。」
④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有
⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。

中間評価

各種指標結果	
①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。	令和3年度 令和2年度 100% ← 89.7%
②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。	⇒ 紹介した。
③生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。	
生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	61.2%←62.9%
保	32.8%←49.5%
生「他人を大切にしていますか。」	75.1%←82.8%
保	57.9%←54.6%
④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有	100% ← 92.3%
⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。	
⇒学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・教職員のいじめ防止に対する意識が上がってきている。学年会、補導部、生徒指導委員会で情報を共有した上で組織的な対応を心がけており、その成果の一つだと考えられる。
	・教育活動が制限されているため、他者と関わる機会が減ったことで、「他人を大切にしていますか」の項目が下がっている。
	・保護者に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知することにより、学校の取組・対応に対する理解が進み、協力していただけたと感じている。今後も広報に努めたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	・生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。
	・中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。

	<p>・教育活動が制限された中でも、他人と関われる、他人のことを考えることができる活動ができるように工夫する。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ② 「他人を大切にしていますか。」 ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの日本を拓く大切な子どもたち、大切に育みたいですね。管理職は教職員を、教職員は生徒を、保護者は子どもを大切にする学校づくりを、より一層進めていただくようお願いします。 ・もう20年以上前ですが、嫌なことを嫌と言えず、いじめられている子を見ても知らぬ顔をするなど、以前先生に相談されても良い方向に向かず、不登校になった生徒がいました。こうした生徒とも真正面から向かい合っただけの学校づくりをお願いしたいと思います。 ・自分に関係ないと傍観することはいじめであること、誰もがいじめの当事者になり得ることを学んでほしいと思います。